

やまなし**教員**育成指標 活用ガイド



令和 7 年 3 月更新
山梨県教育委員会

活用ガイド作成にあたり

教員免許更新制の発展的解消など、昨今の教育事情の変化に対応するため、令和5年3月に「やまなし教員等育成指標」を改定しました。その過程で、育成指標の積極的な活用方法について御意見をいただきました。

そこで、皆様の声をもとに、育成指標の有効活用を目的とした「活用ガイド」を作成しました。



皆様の声にお答えします！

○育成指標について、さらに理解を深めたい→[活用ガイドの見方へ](#)

・改定のポイントとなる語句や文章記述について、詳しく解説します。

○育成指標に基づく研修を知りたい→[活用ガイドの見方へ](#)

・各ステージで求められる指標と総合教育センターの研修をつなぎます。

○活用ガイドの具体的な活用場面や方法を知りたい→[具体的活用場面①](#)

・自己観察書の自己目標の設定など、育成指標の活用場面や方法を伝えます。

○研修履歴の活用の参考にしたい→[具体的活用場面②](#)

・研修履歴システムを活用した受講奨励について説明します。

山梨県総合教育センター等 令和7年度 研修計画・研修一覧

【教諭】研修計画（第1～第3ステージ）

【教諭】研修一覧  ※

【養護教諭】研修計画（第1～第3ステージ）

【養護教諭】研修一覧  ※

【栄養教諭】研修計画（第1～第3ステージ）

【栄養教諭】研修一覧  ※

【校長】研修計画 

【校長】研修一覧  ※

※総合教育センター及び本庁各課主催の研修すべてを掲載
（研修によっては、あらかじめ受講対象が決められている
場合があります。）

やまなし教員等育成指標の改定について

《これまでの指標》

- 教職としての素養と専門性の2本柱
- 教職としての専門性を教員のライフステージ（第1～第3）ごとに設定
- 【専門性】
 - ・学習指導、生徒指導、キャリア教育、特別支援教育、学校運営、新たな教育課題（グローバル化、情報教育、人権教育）

背景・課題

- ◆ Society5.0時代や先行き不透明な予測困難な時代
- ◆ 子どもたちの多様化（特別支援、外国人児童生徒、貧困、いじめ、不登校など）
- ◆ 教員の長時間勤務、多忙化 → 働き方改革

《やまなし教員等育成指標の改定のポイント》

- 教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換（個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用などの視点）
- 全ての子供の学ぶ機会やチャンスをつなぐ教育（誰一人取り残さない視点⇒特別な配慮、合理的配慮、いじめ等問題行動、ヤングケアラー）
- 研修の強化（外部と連携した研修）
- 校長のマネジメント力の強化

改定やまなし教員等育成指標の概要

【山梨県が求める教員像】

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

【教員として必要な素養】

豊かな人間性と人権意識、優れたコミュニケーション能力、崇高な使命感と責任感、高い倫理観と規範意識、常に学び続ける力、ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力

【教員として必要な専門性（ステージごと）】

《ポイント》

【重点項目】教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換

- ・学習者中心の授業を実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組む（例：よのなか科）
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業を実践している
- ・一人一人の特性を理解し、児童生徒の可能性を引き出す集団づくりを行う

【重点項目】全ての子供の学ぶ機会やチャンスをつなぐ教育

- ・児童生徒の気持ちに寄り添い、児童生徒の理解を深め、課題解決に向け取り組んでいる
- ・合理的配慮や教育的ニーズに応じた指導を実践している
- ・ヤングケアラーや不登校等特別な配慮や支援を要する児童生徒に対し、関係者と連携、協働し適切な支援をしている。

【専門性に関する項目】

- ・児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力を同僚と協働し育成している
- ・教員として学び続け、広い視野をもって自己研鑽を積んでいる

改定やまなし校長指標の概要

【山梨県の校長が目指す姿】

リーダーシップを発揮し、信頼される学校経営を行う校長

【校長として必要な素養、専門性】

《改定のポイント》

- ・マネジメント力の強化
- ・アセスメント力の強化
- ・ファシリテーション力の強化

今後の取組

- 育成指標活用ガイドの作成・活用
 - ・指標の内容について具体的に解説
- 育成指標に基づく研修体系の構築
 - ・外部講師も活用した研修の立案
- 研修履歴システム
 - ・研修履歴を活用した管理職による資質向上に関する指導助言
- 自己観察書の活用
 - ・資質能力の向上に向けた振り返り

前半

後半部分へ移動

育成指標を前半と後半に分けて提示

育成指標の中で、詳しく知りたい部分をクリックすると、解説画面に変わります。

教員として必要な専門性

【改定】やまなし教員育成指標

教員として必要な専門性を重点項目ごとに整理

山梨県が求める教員像

ICTを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てる教員

教員として必要な素養（全ステージ）

豊かな人間性と人権意識 優れたコミュニケーション能力 崇高な使命感と責任感
法令の遵守 高い倫理観と規範意識 常に学び続ける力 **ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力**

ステージ	採用時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
		実践力養成期	専門性充実期・協働力養成期	指導力・協働力完成期
各ステージにおいて目指す姿	教育に対する情熱と使命感を有し、今日の教育的課題を積極的にとらえようとしている	実践力を磨き、教員としての基礎を築くとともに、資質能力の向上を目指している	専門性を高め、ミドルリーダーとして組織を活性化させるとともに、資質能力の向上を図っている	豊富な経験と広い視野から指導力・協働力を発揮して学校運営を支えるとともに、後進を育成している

【重点項目】教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換

学習指導（授業実践）	学習指導要領における趣旨を把握し、各教科等の目標や指導内容、評価方法を理解している。	学習者中心の授業を実践し、「主体的・対話的で深い学び」の表現に取り組んでいる。 （例：よのなか科など）	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を実践している。	学びに向かう力の育成や人間性を涵養する授業の実践において、指導的役割を果たしている。
学習指導（学習評価・授業改善）		指導と評価の一体化に取り組むとともに、児童生徒の興味・関心を引き出す教材研究や授業改善を行っている。	適切な評価を行うとともに、学習者中心の授業に向けた改善に取り組んでいる。	適切な評価を基にした授業改善において、指導的役割を果たしている。
生徒指導（学級経営）	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	児童生徒一人一人の特性を理解し、よりよい人間関係を築く土台となる集団づくりを行っている。	集団の課題に対し、同僚と協働し解決を図り、児童生徒の可能性を引き出す集団づくりを行っている。	自校の「育てたい児童生徒像」を意識した集団づくりにおいて、指導的役割を果たしている。
ICTや情報・教育データの利活用	学校におけるICTの活用意義や情報・教育データの重要性を理解している。	授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成する実践を行っている。	ICTや情報・教育データを適切に利活用し、校務の効率化及び児童生徒の学習等の改善を図っている。	ICTや情報・教育データの利活用により、自校の課題を明確にし、改善に向けて指導的役割を果たしている。

【重点項目】全ての子供の学ぶ機会やチャンスをつなぐ教育

生徒指導（児童生徒理解）		日々の声かけや面談により、児童生徒の気持ちに寄り添い、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。
生徒指導（特別支援教育）	各発達段階における心理的特性を把握し、生徒指導の重要性を理解している。	児童生徒の実態を把握し、合理的配慮や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。	特別支援教育の専門性を高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。	医療や福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。
生徒指導（いじめ等への対応）		いじめ等問題行動の未然防止・早期発見に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、関係機関と連携しながら、組織的に対応している。
特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応	不登校や子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒等、児童生徒を取り巻く多様な背景があることを理解している。	児童生徒の個々の状況や背景を理解し、スクールカウンセラー等からの助言を受け、適切な支援をしている。	児童生徒の個々の状況や背景を分析し、スクールカウンセラー等と連携・協働し、適切な支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。

専門性に関する項目

【改定】やまなし教員育成指標(2022年度版)

1. 指標の位置づけ

2. 指標の構成

3. 指標の活用

4. 指標の改定

5. 指標の解説

6. 指標の活用事例

7. 指標の活用ツール

8. 指標の活用支援

9. 指標の活用評価

10. 指標の活用展望

後半

育成指標を
前半と後半に
分けて提示

育成指標の
中で、詳しく
知りたい部分
をクリックす
ると、解説画
面が変わりま
す。

教員として必要な専門性

生徒指導 (いじめ等への対応)		いじめ等問題行動の未然防止・ 早期発見に努め、管理職や関係 職員に報告・相談し、早期に対 応している。	いじめ等問題行動の未然防止 や解決に向けた対処法を身に 付け、協働して対応している。	いじめ等問題行動の未然防止 や解決に向け、 関係機関と連携 しながら、組織的に対応 してい る。
特別な配慮や支援を必要 とする児童生徒への対応	不登校や子供の貧困、ヤ ングケアラー、外国籍児 童生徒等、児童生徒を取り 巻く多様な背景がある ことを理解している。	児童生徒の個々の状況や背景 を理解し、スクールカウンセラ ー等からの助言を受け、適切な支 援をしている。	児童生徒の個々の状況や背景 を分析し、 スクールカウンセ ラー等と連携・協働 し、適切な 支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協 働を推進し、組織的な校内支援 体制の充実を図っている。
専門性に関する項目				
学習指導 (授業計画)	学習指導要領における趣 旨を把握し、各教科等の 目標や指導内容、評価方 法を理解している。	児童生徒の実態を理解し、学習 指導要領の趣旨を踏まえ、ねら いを明確にした指導計画を立て ている。	児童生徒の実態に応じて、各教 科等の専門的知識を生かし、指 導計画を立てている。	教科等の高度な専門性を生かし た指導計画の立案において、指 導的役割を果たしている。
生徒指導 (道徳教育)	各発達段階における心理 的特性を把握し、生徒指 導の重要性を理解してい る。	児童生徒の発達段階に応じて、 道徳性を高める指導を行ってい る。	道徳性の高まりや変容を適切に 見取り、同僚と共有し、指導に 生かしている。	自校の教育活動全体を通じて、 児童生徒の道徳性を高めるよう 組織的な取組を推進している。
生徒指導 (人権教育)		人権を尊重することの意義や必 要性を認識し、児童生徒一人一 人を尊重した指導を行ってい る。	多様性を受容 し、豊かな人間関 係を築くための人権教育を同僚 と協働し推進している。	人権が尊重された学校づくりを するために、家庭・地域と協働し ながら組織的な取組を推進して いる。
生徒指導 (キャリア教育)		キャリア・パスポートを活用し、 将来の在り方や生き方を考えさ せる指導を行っている。	児童生徒が自分らしい生き方を 実現するための力 を、同僚と協 働し育成している。	地域や産業界と連携し、学校全 体による組織的な取組におい て、指導的役割を果たしてい る。
学校運営 (教育課程)		自校の教育目標と教育課程を 理解し、効果的な指導の実現を 図っている。	自校の教育目標達成に向け、 カリ キュラム・マネジメント に基づ いた教育課程の編成・実施に参 画している。	自校の実態に応じて改善を図る ことや、「 社会に開かれた教育 課程 」の編成・実施において、指 導的役割を果たしている。
学校運営 (連携・協働)	学校運営における今日的 課題を把握し、学校運営 の重要性を理解してい る。	自らの役割を理解し、同僚と協 働しながら、その責任を果たし ている。 保護者等と望ましい信頼関係を 構築し、課題に対応している。	ミドルリーダーとして同僚と協 働し、積極的に学校運営に参画 している。 関係機関と連携・協働し、課題 解決に向け取り組んでいる。	チームとしての学校という視点 をもち、連携・協働による課題 解決をリードするとともに、効 果的なOJTを推進している。
学校運営 (学校安全)		学校安全計画や危機管理マニ ュアル等を理解し、安全管理に取 り組んでいる。	学校安全計画や危機管理マニ ュアル等に基づいた取組を推進 し、その改善に努めている。	安全管理に精通し、学校安全計 画や危機管理マニュアル等の改 善が推進されるよう、指導的役 割を果たしている。
学校運営 (働き方改革・業務改善)		校務に積極的に参加するととも に、 勤務時間を意識した働き方 を行っている。	働き方改革に積極的に取り組 み、ミドルリーダーとして学校運 営の持続的な改善を支えている。	学校組織マネジメント の視点か ら、組織全体を俯瞰し、業務の 効率化の具体的提案と推進を 図っている。
自ら学ぶ姿勢	教員として学び続ける重 要性を理解している。	自己の課題を認識し、必要な 研 修 に主体的に取り組むととも に、 広い視野をもって自己研鑽 を積んでいる。	ミドルリーダーとして、積極的に 研修 に参加し、その成果を同僚 と共有して、自校の教育活動全 体に生かしている。	自校の教育課題に対応した 研修 を企画・立案し、チームとしての 学校の組織力を高める取組を 推進している。

やまなし教員等育成指標の改定のポイント

○教員主体の授業から児童生徒主体の授業への転換

(個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用などの視点)

○全ての子供の学ぶ機会やチャンスを潰さない教育

(誰一人取り残さない視点⇒特別な配慮、合理的配慮、いじめ等問題行動、ヤングケアラー)



◆個別最適な学び

《指導の個別化》

子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じて、教師が学習環境を整えたり、学習時間を設定したり、学習方法の選択肢や教材を用意したりすること。

《学習の個性化》

子供一人一人が自分の興味関心のあるものを選んで学んだり、表現したりするもの。例えば、小中学校の「総合的な学習の時間」や高校の「総合的な探究の時間」での学びなど

◆協働的な学び

子供一人一人のよい点や可能性を生かし、子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者との協働した学びのこと。

◆誰一人取り残さない視点

教育は全ての人に向けて開かれており、誰もがその恩恵を享受できるもの。どのようなニーズや背景を有する子供たちでも、山梨にあっては、誰一人取り残されることなく、学ぶ機会やチャンスが保障されている。

山梨県が求める教員像

山梨県が求める教員像

ＩＣＴを活用し、多様な子供たちに個別最適な学びと協働的な学びを実践しながら、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てている教員

◆最新のデジタル技術を活用すると・・・

子供一人一人の興味・関心や特性、学習進度に応じた重点的な指導、教材等の工夫や課題の提示等を、効果的に行うことが可能

◆個に応じた指導による「個別最適な学び」や、他者と共によりよい考えを生み出す「協働的な学び」を実践すると・・・

誰一人取り残さず、多様な子供たち一人一人の可能性を開花させチャンスを保障し、子供たちの学びを深める子供主体の教育を実現



《求められるもの》

山梨県では、ＩＣＴ活用指導力を発揮しながら「子供主体による質の高い教育」を実現できる教員を求めています。

教員として必要な素養



◆豊かな人間性と人権意識◆

➢グローバル社会において、豊かな人間性や社会性、人権意識など、国際社会で必要とされる基本的な資質は、教員としての信頼を得ていく上で重要です。

◆優れたコミュニケーション能力◆

➢他の教職員や児童生徒、保護者、地域住民等と、自らの意見も伝えつつ、円滑なコミュニケーションを取りながら、良好な人間関係を作る力が必要です。

◆崇高な使命感と責任感◆

➢教育者としての崇高な使命感や誇り、教職への強い情熱、児童生徒への教育的愛情や責任感は、いつの時代にも求められる教員として大切な資質です。

◆高い倫理観と規範意識◆

➢専門的な知識とともに、倫理観や規範意識を一層高め、サービスの厳正に努め、保護者や地域住民等から信頼・尊敬される教員として、真摯に取り組めます。

◆常に学び続ける力◆

➢変化の激しい中、教師は常に最新の知識技能を学び続けることが求められ、主体的に学ぶ教師の姿は、児童生徒にとって重要なロールモデルとなります。

◆ふるさと山梨の未来を担う人材を育成する力◆

➢豊かな自然や人とのふれあい等、ふるさと山梨のよさを強みととらえ、次代を担い、山梨の未来を支え、志高く活躍できるグローバル人材を育成します。

教員として必要な専門性

学習指導（授業実践）

第1ステージ

学習者中心の授業を
実践し、「**主体的・対
話的で深い学び**」の実
現に取り組んでいる。
（例：よのなか科）

第2ステージ

「**個別最適な学び**」
と「**協働的な学び**」の
一体的な充実に向けた
授業を実践している。

第3ステージ

**学びに向かう力の育
成**や人間性を涵養する
授業の実践において、
指導的役割を果たして
いる。

《背景・状況》

- ◆学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実
- ◆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組
- ◆新しい時代に必要となる資質・能力の育成

《求められるもの》

山梨の未来を担う子供たちを育成するため、学習指導（授業実践）において、「令和の日本型学校教育」を踏まえた授業観・学習観の転換が求められます。

教員として必要な専門性

学習指導（学習評価・授業改善）

第1ステージ 	第2ステージ 	第3ステージ 
指導と評価の一体化 に取り組むとともに、 児童生徒の興味・関心 を引き出す教材研究や 授業改善を行っている。	適切な評価を行うと ともに、 学習者中心の 授業 に向けた改善に取 り組んでいる。	適切な評価を基にし た授業改善において、 指導的役割を果たして いる。

《背景・状況》

- ◆児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図る。
- ◆児童生徒が自らの学びを振り返り、次の学びに向かうことができる。
- ◆児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視

《求められるもの》

学習評価が児童生徒の学習改善、教師の指導改善につながるものとしていくこと、必要性・妥当性が認められないものは見直していくことが求められます。

教員として必要な専門性

生徒指導（学級経営）

第1ステージ 	第2ステージ 	第3ステージ 
児童生徒一人一人の特性を理解し、よりよい人間関係を築く土台となる集団づくりを行っている。	集団の課題に対し、同僚と協働し解決を図り、児童生徒の可能性を引き出す集団づくりを行っている。	自校の「育てたい児童生徒像」を意識した集団づくりにおいて、指導的役割を果たしている。

《背景・状況》

- ◆学校教育指導重点において、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」を貫くものとして「学級経営、ホームルームの充実が位置付けられている。
- ◆集団としての意見をまとめたり、個人として問題解決に向けた目標や方法・内容等を決定したりする活動が求められている。

《求められるもの》

児童生徒一人ひとりのよさや可能性を十分発揮できる学級や学年集団づくりが求められています。

教員として必要な専門性

ICTや情報・教育データの利活用

第1ステージ



授業や校務等にICTを活用し、児童生徒の情報モラルを含めた**情報活用能力を育成**する実践を行っている。

第2ステージ



ICTや情報・教育データを適切に利活用し、**校務の効率化**及び児童生徒の学習等の改善を図っている。

第3ステージ



ICTや情報・教育データの利活用により、自校の課題を明確にし、改善に向けて指導的役割を果たしている。

《背景・状況》

- ◆GIGAスクール構想による一人一台端末の活用や、情報・教育データおよび生成AIの学校現場での利活用など、教育DXが加速
- ◆令和の日本型学校教育を支える基盤として、ICTは必要不可欠であり、教員のデータリテラシーの向上やICT活用指導力は必須
- ◆ICT活用による校務の効率化で、教員の業務負担を軽減

《求められるもの》

教育におけるデジタル化の進展に伴い、ICTや教育データ等の活用による「学習者主体の授業」の実現とともに、働き方改革のICT化も含め、ICT活用指導力は、全ての教員に求められます。

教員として必要な専門性

生徒指導（児童生徒理解）

第1ステージ 	第2ステージ 	第3ステージ 
日々の声かけや面談により、 児童生徒の気持ちに寄り添い、信頼関係を構築している。	同僚と協働し、 観察や情報収集を通じて児童生徒の理解を深め、課題解決に向け取り組んでいる。	児童生徒の課題を多面的に把握し、課題解決に向けて組織的な取組を推進している。

《背景・状況》

- ◆生徒指導により、児童生徒が、自らのよさや可能性に気付き、引き出し、伸ばす姿勢を身に付けることが大切
- ◆現在、いじめ等の問題行動への対応や不登校への支援が増加
- ◆他の教職員や関係機関等との連携、個に応じた指導や集団指導による課題解決

《求められるもの》

子供の心身の発達過程や特徴を理解し、児童生徒に寄り添い、個々の悩みや思いを共感的に受け止めることが求められます。

教員として必要な専門性

生徒指導（特別支援教育）

第1ステージ

児童生徒の実態を把握し、**合理的配慮**や教育的ニーズに応じた適切な指導を実践している。

第2ステージ

特別支援教育の専門性高め、同僚と協働し効果的な指導を行っている。

第3ステージ

医療や福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。

《背景・状況》

- ◆通級による指導、特別支援学級、特別支援学校の在籍者数の増加に伴う、特別支援教育の専門性向上による適切な支援の重要性の高まり
- ◆発達障害等の特性等を踏まえた学級経営・授業づくりの研鑽を図る必要性
- ◆関係機関との連携強化により、切れ目のない支援の充実を図ることが重要

《求められるもの》

特別な支援を受ける子供の数が増加する中で、**特別支援教育をさらに進展**させていくことが求められます。

教員として必要な専門性

生徒指導（いじめ等への対応）

第1ステージ

いじめ等問題行動の未然防止・早期発見に努め、管理職や関係職員に報告・相談し、早期に対応している。

第2ステージ

いじめ等問題行動の未然防止や解決に向けた対処法を身に付け、協働して対応している。

第3ステージ

いじめ等問題行動の未然防止や解決に向け、**関係機関と連携しながら、組織的に**対応している。

《背景・状況》

- ◆いじめ重大事態の増加傾向
- ◆いじめはどこの学校でも起こり得るため、積極的な認知→事実確認→方針決定→保護者説明等、解決への取組を組織的に進めることが重要
- ◆犯罪行為として取り扱われるべきものは、直ちに警察に相談・通報
- ◆学校いじめ防止基本方針については、必要に応じて見直す。

《求められるもの》

多様性など人権意識を育てる教育を推進し、多面的な観察により児童生徒の変化を見逃さず、いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、学校いじめ対策組織による丁寧な対応が求められます。

教員として必要な専門性

特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応

第1ステージ 	第2ステージ 	第3ステージ 
児童生徒の個々の状況や背景を理解し、スクールカウンセラー等からの助言を受け、適切な支援をしている。	児童生徒の個々の状況や背景を分析し、 スクールカウンセラー等と連携・協働 し、適切な支援をしている。	福祉等の関係機関との連携・協働を推進し、組織的な校内支援体制の充実を図っている。

《背景・状況》

- ◆不登校児童生徒数は年々増加傾向（小学校低学年、中学校1年生の増加）
- ◆児童生徒の家庭環境の多様化・複雑化、発達障害等の個々の特性への理解
- ◆不登校、子供の貧困、ヤングケアラー、外国籍児童生徒への支援は、福祉等の専門家と連携した環境への働きかけとともに、フリースクール等関係機関との連携も必要

《求められるもの》

多様な背景をもつ児童生徒には、家庭環境や本人の特性を理解した支援が必要なため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関等と連携・協働した組織的な支援体制が求められます。

教員として必要な専門性

学習指導（授業計画）

第1ステージ

児童生徒の実態を理解し、学習指導要領の趣旨を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を立てている。

第2ステージ

児童生徒の実態に応じて、各教科等の専門的知識を生かし、指導計画を立てている。

第3ステージ

教科等の高度な専門性を生かした指導計画の立案において、指導的役割を果たしている。

《背景・状況》

- ◆各教科特有の「見方・考え方」を理解し、教科を学ぶ本質的な意義の明確化
- ◆単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、資質・能力の育成
- ◆各教科等及び各学年相互間の関連を図った、系統的、発展的な指導の実施

《求められるもの》

「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」を明確にし、学習者を主体とした「どのように学ぶか」までが、指導計画を立案する上で求められます。

教員として必要な専門性

生徒指導（道徳教育）

第1ステージ

児童生徒の発達段階に応じて、道徳性を高める指導を行っている。

第2ステージ

道徳性の高まりや変容を適切に見取り、同僚と共有し、指導に生かしている。

第3ステージ

自校の教育活動全体を通じて、児童生徒の道徳性を高めるよう組織的な取組を推進している。

《背景・状況》

- ◆全教師による一貫性のある道徳教育を組織的に展開
- ◆「考える道徳」「議論する道徳」への授業転換の必要性
- ◆教科としての道徳の評価は、児童生徒が自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていく必要がある。

《求められるもの》

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養っていくことが求められます。

教員として必要な専門性

生徒指導（人権教育）

第1ステージ

人権を尊重することの意義や必要性を認識し、児童生徒一人一人を尊重した指導を行っている。

第2ステージ

多様性を受容し、豊かな人間関係を築くための人権教育を同僚と協働し推進している。

第3ステージ

人権が尊重された学校づくりをするために、家庭・地域と協働しながら組織的な取組を推進している。

《背景・状況》

- ◆人権が尊重され、安心して過ごせる場としての学校の重要性
- ◆多様性の理解と尊重に対する意識の高まり
- ◆各教科等との関連や、家庭・地域と連携する取組などを意識した教育課程の編成による、人権教育の更なる充実

《求められるもの》

教師自身が児童生徒の人権を尊重する意識を持つとともに、子供たちが、自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、具体的な態度や行動に表れる人権感覚を涵養していくことが求められます。

教員として必要な専門性

生徒指導（キャリア教育）

第1ステージ 	第2ステージ 	第3ステージ 
キャリア・パスポートを活用し、将来の在り方や生き方を考えさせる指導を行っている。	児童生徒が自分らしい生き方を実現するための力を、同僚と協働し育成している。	地域や産業界と連携し、学校全体による組織的な取組において、指導的役割を果たしている。

《背景・状況》

- ◆学ぶことと自己の将来のつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力の育成
- ◆特別活動を要とし、小中高を通して計画的、系統的な取組
- ◆キャリア・パスポートの効果的活用の推進と職業体験活動の充実

《求められるもの》

児童生徒一人一人に学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うことが求められます。

教員として必要な専門性

学校運営（教育課程）

第1ステージ

自校の教育目標と教育課程を理解し、効果的な指導の実現を図っている。

第2ステージ

自校の教育目標達成に向け、**カリキュラム・マネジメント**に基づいた教育課程の編成・実施に参画している。

第3ステージ

自校の実態に応じて改善を図ることや、**「社会に開かれた教育課程」**の編成・実施において、指導的役割を果たしている。

《背景・状況》

- ◆「社会に開かれた教育課程」の重視
- ◆教科横断的な視点に立った資質・能力の育成
- ◆学校段階間の接続を意識した教育課程の編成・実施

《求められるもの》

子供たちが社会や世界に関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を、教育課程において明確化し育んでいくことが求められています。

教員として必要な専門性

学校運営（連携・協働）

第1ステージ

自らの役割を理解し、同僚と協働しながら、その責任を果たしている。

保護者等と望ましい信頼関係を構築し、課題に対応している。

第2ステージ

ミドルリーダーとして同僚と協働し、積極的に学校運営に参画している。

関係機関と連携・協働し、課題解決に向け取り組んでいる。

第3ステージ

チームとしての学校という視点を持ち、連携・協働による課題解決をリードするとともに、効果的なOJTを推進している。

《背景・状況》

- ◆校長のリーダーシップの下、学校のマネジメントを強化
- ◆学校が抱える課題が、複雑化・困難化し、心理や福祉など教育以外の高い専門性が求められるような事案の増加
- ◆経験豊かな教員が培ってきた教育に対する高い見識や指導力等を若手の教員に継承していくことの必要性

《求められるもの》

一人一人の教員がもつ力を学校全体の力として生かすことができるよう、教員が力を合わせ、一体となって教育活動を展開していくことが求められます。

教員として必要な専門性

学校運営（学校安全）

第1ステージ

学校安全計画や危機管理マニュアル等を理解し、安全管理に取り組んでいる。

第2ステージ

学校安全計画や危機管理マニュアル等に基づいた取組を推進し、その改善に努めている。

第3ステージ

安全管理に精通し、学校安全計画や危機管理マニュアル等の改善が推進されるよう、指導的役割を果たしている。

《背景・状況》

- ◆登下校中の交通事故、熱中症事故、不審者対応など、児童生徒を取り巻くあらゆる危機を想定した計画や対応が必要
- ◆自転車乗車中のヘルメット着用、WBGTに基づいた熱中症対策など学校関係者が共通理解の基で組織的に指導することが大切
- ◆児童生徒が自ら身を守る力や危険を回避する能力を育てていくことが重要

《求められるもの》

学校安全計画や危機管理マニュアルに基づいた安全教育、安全管理、組織活動を推進するとともに、計画やマニュアルが学校の実態に応じた実効性あるものであるか見直し改善していく力が求められています。

教員として必要な専門性

学校運営（働き方改革・業務改善）

第1ステージ 	第2ステージ 	第3ステージ 
校務に積極的に参加するとともに、勤務時間を意識した働き方を行っている。	働き方改革に積極的に取り組み、ミドルリーダーとして学校運営の持続可能な改善を支えている。	学校組織マネジメントの視点から、組織全体を俯瞰し、業務の効率化の具体的提案と推進を図っている。

《背景・状況》

- ◆教員が、ワークライフバランスの実現を通して、心身ともに健康で、充実した教育活動や家庭生活を送るため、学校の働き方改革が喫緊の課題
- ◆依然として、長時間勤務の教員が多い。
- ◆教員不足が深刻化しているため、働き方改革や教職の魅力向上の取り組みが重要

《求められるもの》

教員が、働きがいを感じ、十分に力を発揮しながら子供と向き合っていくために、勤務時間や健康管理を意識して、働き方改革や業務改善に取り組んでいくことが求められます。

教員として必要な専門性

自ら学ぶ姿勢

第1ステージ

自己の課題を認識し、必要な**研修**に主体的に取り組むとともに、**広い視野をもって自己研鑽**を積んでいる。

第2ステージ

ミドルリーダーとして、積極的に**研修**に参加し、その成果を同僚と共有して、自校の教育活動全体に生かしている。

第3ステージ

自校の教育課題に対応した**研修**を企画・立案し、チームとしての学校の組織力を高める取組を推進している。

《背景・状況》

- ◆組織の力で学校が抱える課題の解決や教育活動の質の向上を図ることが喫緊の課題
- ◆VUCAの時代、教員が主体的に学ぶ姿勢が求められる。
- ◆探究心をもちつつ、自らの専門性を向上させる学びが重要
- ◆学校力を高めるための校内研究の推進方法について学ぶことが大切

《求められるもの》

教師自身が学び（研修観）の転換を図り、常に社会情勢や今日的教育課題に関心を持ちながら学び続けていくことにより、職務遂行に必要な資質能力を**主体的にマネジメント**していくことが求められます。

校長として目指す姿

校長として目指す姿

リーダーシップやマネジメント力を発揮し、信頼される学校経営を行う校長

◆校長のリーダーシップ

学校改革を進め、学校の教育力を向上させるためには、校長がリーダーシップを発揮し、児童生徒や地域の実態を踏まえ、学校のビジョンを示し、教職員や地域住民、保護者等と意識や取組の方向性を共有し、チームとして取り組むことが重要

◆信頼される学校経営のために

地域に開かれ信頼される学校を実現するため、保護者や地域住民の意見や要望を学校経営に反映させ、マネジメントを発揮して、家庭や地域社会と連携・協働することが重要

《求められるもの》

校長は、山梨県教育振興基本計画を踏まえ、家庭や地域社会と連携・協働して学校経営を行い、児童生徒や保護者、地域住民、教職員から信頼・尊敬を得ることが求められます。

校長として必要な素養

マネジメント力

校長として必要な素養

マネジメント力

教育者としての資質や的確な判断力、決断力、交渉力、危機管理などの**マネジメント力**の向上に取り組んでいる。



学校の実態に関する様々なデータや学校が置かれた内外環境に関する情報について収集・整理・分析し共有する**アセスメント力**の向上に取り組んでいる。



学校内外の関係者の相互作用により、学校の教育力が最大化できる**ファシリテーション力**の向上に取り組んでいる。



校長として必要な素養 マネジメント力

校長として必要な素養

教育者としての資質や的確な判断力、決断力、交渉力、危機管理などの**マネジメント力**の向上に取り組んでいる。



《背景・状況》

◆マネジメントの強化

校長には、従前より求められていた判断力、決断力、交渉力、危機管理等のマネジメント力に加え、学校で働く人材が多様化する中で、「チーム学校」を組織し、働きやすい職場環境を構築するとともに、教職員がそれぞれの強みを活かし、働きがいを高めていくマネジメントも必要

《求められるもの》

校長には、学校内外の多様な人材を「チーム学校」として組織するとともに、学校の働き方改革を進めるなど、より一層**マネジメント**による学校経営が求められます。

校長として必要な素養 アセスメント力

校長として必要な素養

学校の実態に関する様々なデータや学校が置かれた内外環境に関する情報について収集・整理・分析し共有する**アセスメント力**の向上に取り組んでいる。



《背景・状況》

◆アセスメント力の向上

学校教育活動に関わる様々なデータや情報（自らの学校の強み・弱み、昨今の学校教育を取り巻く課題など）について、収集・整理・分析することで、学校の置かれた状況や課題を把握し、それらを踏まえた対策等について教職員間や学校運営協議会等で共有していくことが重要

《求められるもの》

校長には、学校経営方針の策定のため、学校の状況や課題を適切に把握する学校組織の**アセスメント力**が求められます。

校長として必要な素養 ファシリテーション力

校長として必要な素養

学校内外の関係者の相互作用により、学校の教育力が最大化できる**ファシリテーション力**の向上に取り組んでいる。



《背景・状況》

◆ファシリテーション力の向上

様々な背景、経験、専門性等をもつ教職員間のコミュニケーションを促し、相互理解を深め、成果を生み出せるように支援するとともに、学校運営協議会などの学校・家庭・地域関係者との協議を円滑に進めていくファシリテーターとしての役割が求められます。

《求められるもの》

校長には、教職員や地域等の学校内外の関係者とのプラスの相互作用を促し、学校が抱える教育課題を解決に導く**ファシリテーション力**が求められます。

具体的な活用場面①

自己目標の設定・評価

年度当初

育成指標等を参考に、自身のキャリアステージに基づいた目標を設定



日常活動中

管理職からの指導助言内容や、自己目標の追加・変更、達成状況を記入



年度末

育成指標等を参考に目標の達成状況を確認し、次年度の取組内容を整理

◆自己観察書の作成

- 年度当初、学校教育目標や学校経営方針などを踏まえ、年間の自己目標等を設定する際に「やまなし教員等育成指標」や「研修履歴」を補助資料として活用していくことで、自身の課題を明確にしたうえで目標設定ができる。特に、研修目標・計画を設定する際は、自己目標の達成にあたり、自身のキャリアステージで求められる資質・能力や校務分掌で期待される役割と関連付ける。
- 年度末、1年間の取組状況や自己反省を記入する際にも、これらの資料を活用して振り返りを行い、次年度の目標設定に生かす。

自 己 観 察 書					
目標設定基準日 令和 年 5 月 1 日			評価基準日 令和 年 1 月 1 日		
氏名	年 月 日 生 (歳)		学校名	職 名	
教科 指導	担当教科・ 担当学年・週 別指導時間	教科 外指導	担 当	週別指導 時間	校務 分掌
研修 分野	○今年度の具体的な目標・ 目標達成のための具体的な手立て		目標 達成率	自己観察記録	
教科指導				指導助言記録	
教科外指導					
研修 分野	○今年度の具体的な目標・ 目標達成のための具体的な手立て		目標 達成率	自己観察記録	
本任 担当の 場面				指導助言記録	
研 修	今年度の研修の目標・計画について			研修の成果及び今後の課題について	

具体的な活用場面②

研修履歴を活用した受講奨励

①教員の意欲や主体性の尊重 ②学校組織の総合的な機能発揮 ③個々の人材育成の観点で、**校長の指導力**が求められます。

研修会名	開催日時	開催場所	講師	受講者	研修内容
センター主催研修会の一覧					
県教委・教育事務所・市教委・NITS等主催の研修会の一覧					
その他の研修会の一覧					

◆研修主事の役割（学校教育法施行規則）

- ・校内研修・校内研究に関する計画の企画・立案
- ・校内研修・校内研究のための講師派遣依頼や資料提供依頼等の渉外業務
- ・校内研修・校内研究に関する校内における他の分掌との調整や運営・取りまとめ
- ・初任者研修・中堅教諭等資質向上研修等の受講者の受講日程・内容等の計画作成・調整

研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励については、人事評価制度との違いを留意しつつ、人事評価の面談の機会を活用することができる。

◆年度当初の管理職面談において

- ・教員一人ひとりの職責、経験、適性に照らした人材育成の観点
- ・学校教育目標の達成のために必要な専門性・能力の確保などの観点から過去の研修履歴を活用し、指導助言を行う。

◆年度末の管理職面談において

- ・OJTや校内外研修等の実施状況を踏まえ、研修履歴を振り返りながら、今後の資質向上のための指導助言を行う。